
第 1 章

平成 19年の福島県経済の概況

第1章 平成19年の福島県経済の概況

総合判断

平成19年の福島県経済は、生産活動は高水準で好調に推移したものの、雇用の改善の動きには次第に弱まりがみえ、個人消費は総じて弱含みで推移するなど、**年後半から回復のテンポに減速感が出てきた。**

平成19年の日本経済は外需の堅調さを背景に企業収益は依然高水準であり設備投資も緩やかながら増加基調であるなど企業部門は底堅く推移したが、サブプライムローン問題を背景としたアメリカ経済の減速により輸出が弱含むようになった。また、賃金が伸び悩む中で、原油原材料価格高の影響や天候にも大きく左右され消費マインドが低下したことから個人消費は年を通して横ばいとなり景気回復の家計部門への明確な波及は見られなかった。(図1,図2)

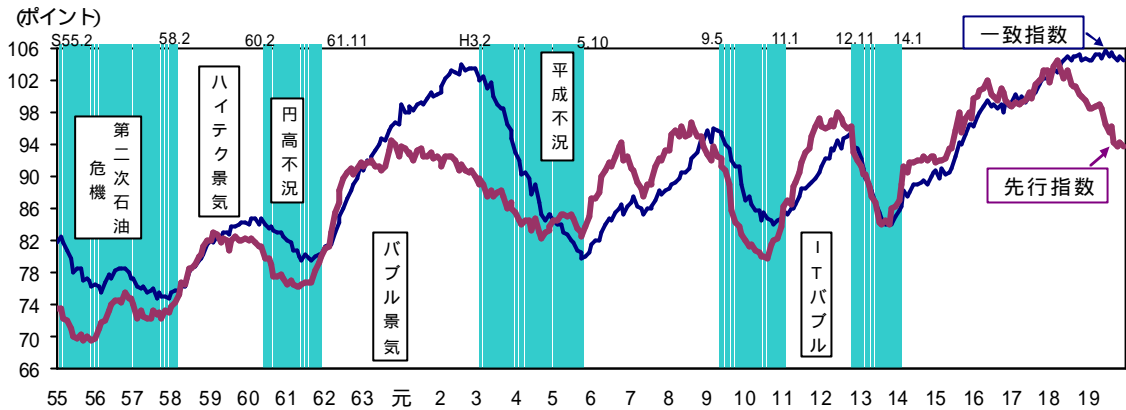
このような中で平成19年の福島県経済を振り返ると、生産活動は県内への企業進出・増設の動きが活発化していることや、国内外からの受注増により高水準を維持しながら推移したものの、企業収益が前年より大幅に悪化したことから、雇用の改善の動きには次第に弱まりがみえた。

一方、個人消費は原油原材料価格高騰の影響による物価の上昇や天候要因、消費マインドの低下などにより弱含みで推移した。企業倒産件数は2年振りに前年を下回ったものの、負債総額は2年連続で前年を上回り企業収益の先行き悪化懸念や1件当たりの倒産規模の大きさを考慮すると、予断を許さない状況が続いた。

以上のとおり平成19年の福島県経済は、平成14年1月を谷としたバブル崩壊後3回目の長期の景気回復期にあり生産活動は高水準で好調に推移したが、10月以降の原油原材料価格高騰を背景として企業経営は厳しさを増し、雇用の改善の動きは弱まりをみせ、個人消費は総じて弱含みで推移するなど、年後半から回復のテンポに減速感が出てきた。(図3)

図1 景気動向指数 Cグラフ(国)

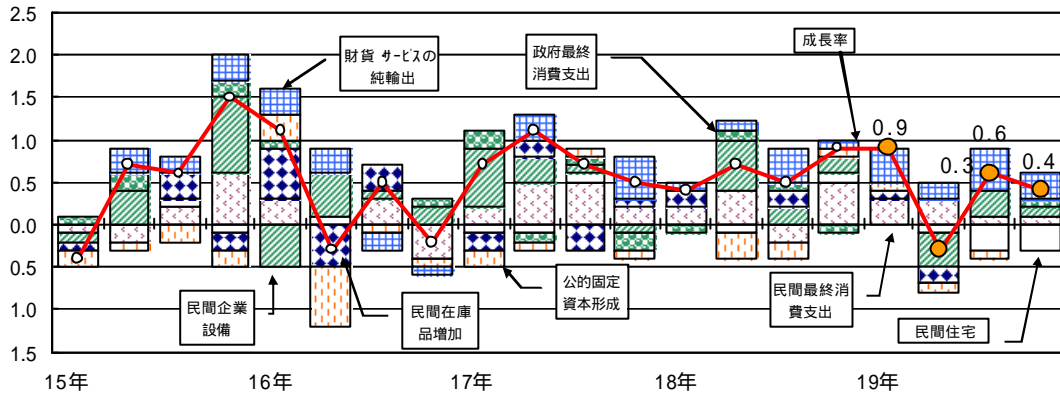
(H17=100)



- 備考 1 (内閣府経済社会総合研究所「景気動向指数」より作成。)
 2 (シャドウの部分は日本経済の景気後退期を示している。)
 3 (各景気の名前は正式なものではなく通称を付したものである。)

図2 国内総生産 (GDP)成長率及び寄与度 (実質、季節調整系列)

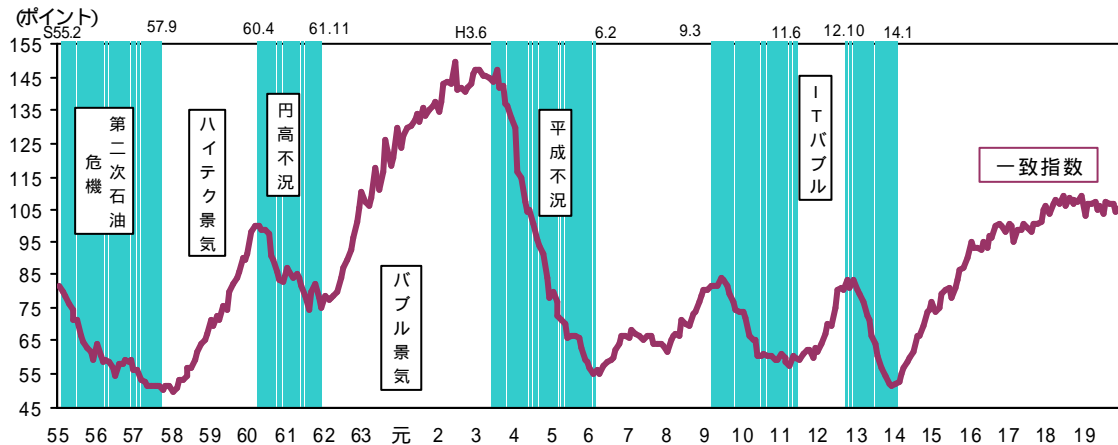
(前期比、%)



- 備考 1 (内閣府経済社会総合研究所「需要項目別時系列表データ(連鎖方式)」より作成。)
 2 (平成12暦年連鎖価格。)
 3 (93SNA。)


図3 景気動向指数 一致Cグラフ(県)

(H17=100)

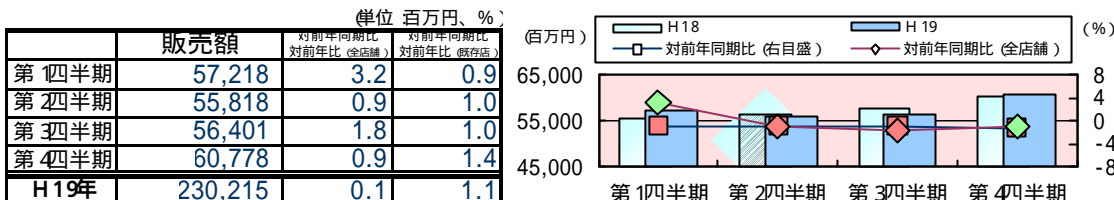


- 備考 1 (福島県企画調整部統計分析課「福島県景気動向指数」より作成。)
 2 (シャドウの部分は福島県経済の景気後退期を示している。)
 3 (各景気の名前は正式なものではなく通称を付したものである。)

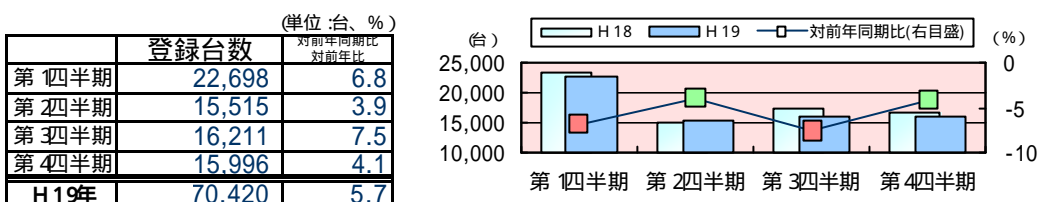
主要経済指標の概要

個人消費 変化方向  **原油原材料価格高騰の影響による物価上昇や天候要因、消費マインドの低下などにより、弱含みで推移した。**

- (1) **大型小売店販売額**は全店舗ベースで総額2,302億1,500万円、対前年比0.1%減となり2年振りに前年を下回った。 詳細は、P11に掲載

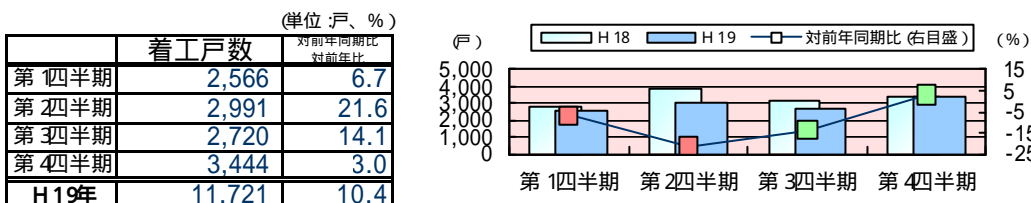


- (2) **乗用車新規登録台数**は70,420台、対前年比5.7%減となり7年連続で前年を下回った。 詳細は、P13に掲載

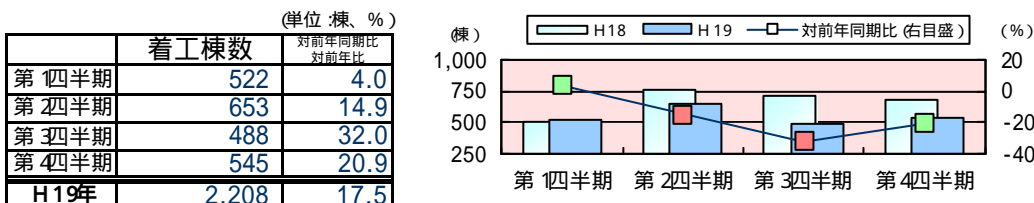


建設需要 変化方向  **改正建築基準法の影響により、低い水準で推移した。**

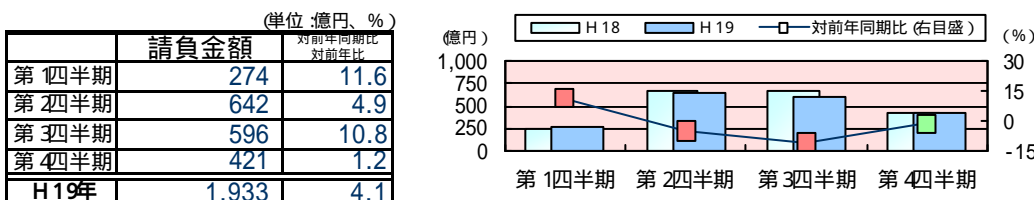
- (1) **新設住宅着工戸数**は11,721戸、対前年比10.4%減となり2年振りに前年を下回った。 詳細は、P15に掲載



- (2) **業務用建築物着工棟数**は2,208棟、対前年比17.5%減となり2年連続で前年を下回った。 詳細は、P17に掲載



- (3) **公共工事請負金額**は1,933億円、対前年比4.1%減となり8年連続で前年を下回った。 詳細は、P19に掲載

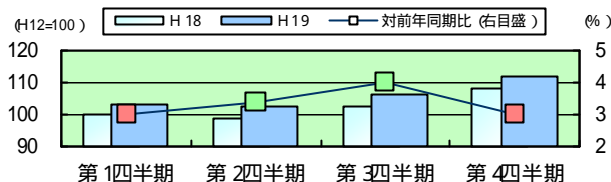


生産活動 ▶ 変化方向 ▶ 高水準を維持し好調に推移した。

(1) **鉱工業生産指数**は105.8(H17=100)、対前年比3.4%増となり、3年連続で前年を上回った。 ▶ 詳細は、P21に掲載

(単位 H17=100、%)

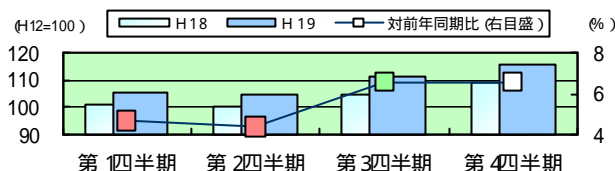
	生産指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	103.1	3.0
第2四半期	102.2	3.4
第3四半期	106.3	4.0
第4四半期	111.5	3.0
H19年	105.8	3.4



鉱工業出荷指数は109.4(H17=100)、対前年比5.6%増となり、4年連続で前年を上回った。

(単位 H17=100、%)

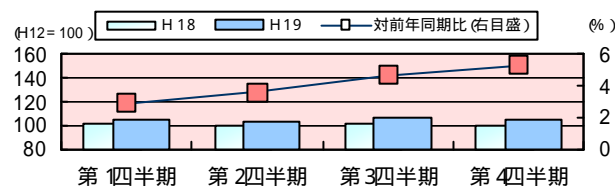
	出荷指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	105.5	4.7
第2四半期	104.7	4.4
第3四半期	111.5	6.6
第4四半期	116.0	6.6
H19年	109.4	5.6



鉱工業在庫指数は105.0(H17=100)、対前年比4.2%増となり、3年連続で前年を上回った。

(単位 H17=100、%)

	在庫指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	104.8	2.9
第2四半期	103.7	3.6
第3四半期	106.4	4.7
第4四半期	105.0	5.3
H19年	105.0	4.2

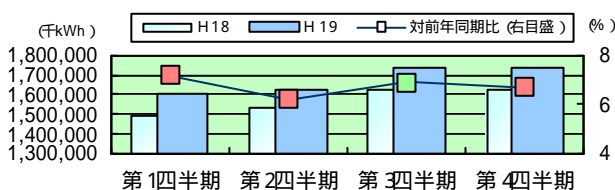


(2) **大口電力使用量**は約6,702百万kWh、対前年比6.7%増となり、9年連続で前年を上回った。 ▶ 詳細は、P25に掲載

(単位 :千kWh、%)

	使用量	対前年同期比 対前年比
第1四半期	1,602,693	7.2
第2四半期	1,630,689	6.2
第3四半期	1,732,717	6.9
第4四半期	1,735,917	6.7
H19年	6,702,016	6.7

(四半期値は、月値の平均値)



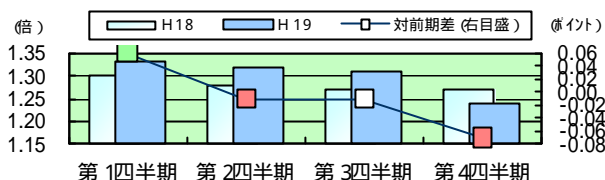
備考 1 指標名が緑字の場合には、前年より指標が改善したことを表し、指標名が赤字の場合には、前年より指標が悪化していることを表しています。
 2 図が左図の色の場合は、年ベースで見た場合に前年より指標が改善したことを表し、図が右図の色の場合には、前年より指標が悪化したことを表しています。
 3 図中の折れ線グラフの色が左図の場合には、四半期ベースで見た場合に前年同期(又は前期)より指標が改善したことを表し、図中の折れ線グラフの色が右図の場合には、前年同期(又は前期)より指標が悪化したことを表しています。

雇用・労働 変化方向 雇用の改善の動きは次第に弱まりがみえた。
労働は足踏み状態が続いた。

(1) **新規求人倍率** (原指数) は **1.30倍**、対前年差 **0.02ポイント** 上昇し、**5年連続で前年を上回った。** 詳細は、P27に掲載

(単位:倍、ポイント)

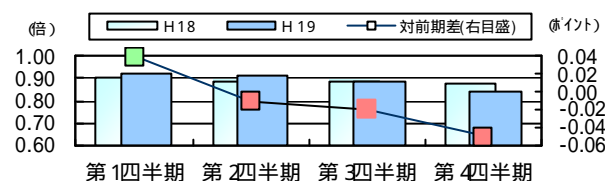
	倍率	対前期差 対前年差
第1四半期	1.33	0.06
第2四半期	1.32	0.01
第3四半期	1.31	0.01
第4四半期	1.24	0.07
H19年	1.30	0.02



(2) **有効求人倍率** (原指数) は **0.89倍**、前年と同率となった。 詳細は、P29に掲載

(単位:倍、ポイント)

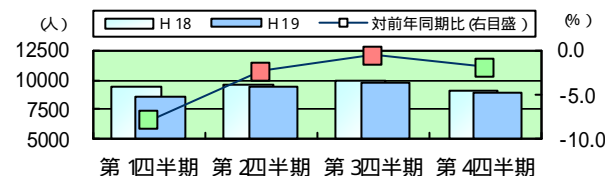
	倍率	対前期差 対前年差
第1四半期	0.92	0.04
第2四半期	0.91	0.01
第3四半期	0.89	0.02
第4四半期	0.84	0.05
H19年	0.89	0.00



(3) **雇用保険受給者実人員** は年間平均で1ヶ月あたり **9,196人**、対前年比 **3.1%減** となり **5年連続で前年を下回った。** 詳細は、P29に掲載

(単位:人、%)

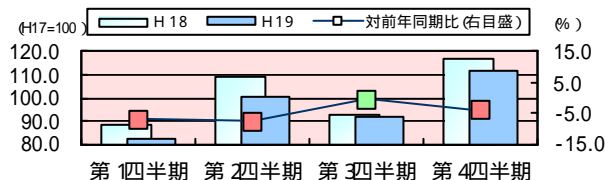
	受給者実人員	対前年同期比 対前年比
第1四半期	8,617	7.8
第2四半期	9,424	2.4
第3四半期	9,810	0.6
第4四半期	8,931	1.9
H19年	9,196	3.1



(4) **現金給与総額指数** は **96.9** (H17=100)、対前年比 **4.7%減** となり、**2年振りに前年を下回った。** 詳細は、P33に掲載

(単位:H17=100、%)

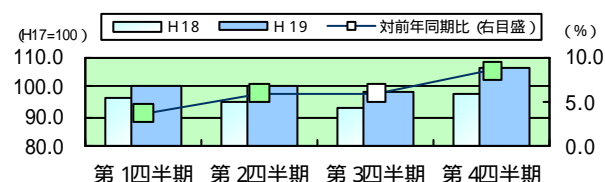
	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	82.7	6.8
第2四半期	100.8	7.6
第3四半期	92.0	0.5
第4四半期	112.0	3.9
H19年	96.9	4.7



(5) **所定外労働時間指数** は **101.3** (H17=100)、対前年比 **6.0%増** となり、**2年振りに前年を上回った。** 詳細は、P33に掲載

(単位:H17=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	100.0	3.7
第2四半期	100.6	5.9
第3四半期	98.5	5.9
第4四半期	106.1	8.5
H19年	101.3	6.0

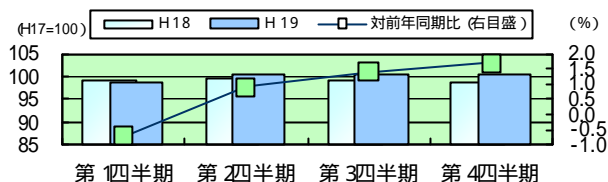


(6) **常用雇用指数**は99.9 (H17=100)、対前年比0.8%増となり、9年振りに前年を上回った。

詳細は、P35に掲載

(単位 H17=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	98.5	0.7
第2四半期	100.4	0.9
第3四半期	100.4	1.4
第4四半期	100.3	1.7
H19年	99.9	0.8

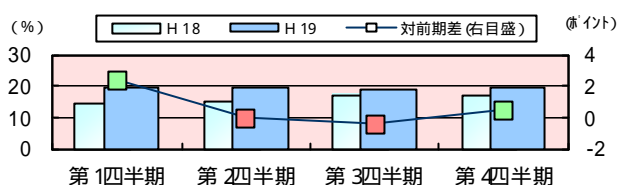


(7) **パートタイム労働者比率**は19.4%、対前年差3.4ポイント上昇し、2年連続で前年を上回った。

詳細は、P35に掲載

(単位：%、ポイント)

	労働者比率	対前年差 対前年差
第1四半期	19.5	2.4
第2四半期	19.5	0.0
第3四半期	19.1	0.4
第4四半期	19.6	0.5
H19年	19.4	3.4



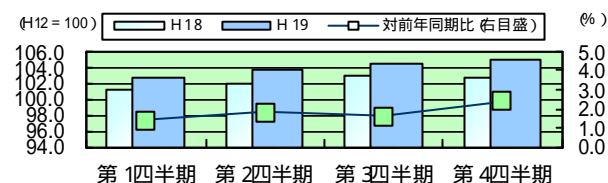
物 価 ▲ 変化方向 **物価は上昇した。**

(1) **国内企業物価指数**は104.0 (H17=100)、対前年比1.8%増となり、4年連続で前年を上回った。

詳細は、P37に掲載

(単位 H12=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	102.6	1.4
第2四半期	103.7	1.8
第3四半期	104.6	1.6
第4四半期	105.1	2.4
H19年	104.0	1.8

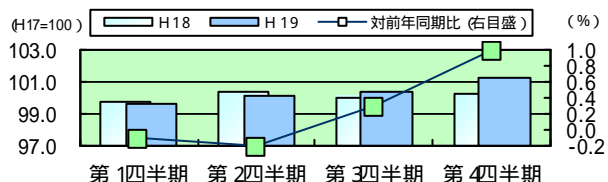


(2) **福島市消費者物価指数 (総合)**は100.4 (H17=100)、対前年比0.2%増となり、2年連続で前年を上回った。

詳細は、P39に掲載

(単位 H17=100、%)

	指数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	99.7	0.1
第2四半期	100.2	0.2
第3四半期	100.4	0.3
第4四半期	101.3	1.0
H19年	100.4	0.2



企業関連 → 変化方向

収益の増加が弱まった。企業倒産は微減となったものの、1件当たりの倒産規模が大きく、予断を許さない状況が続いた。

- (1) **全産業の経常損益** (日本銀行福島支店「全国企業短期経済観測調査 福島県分」の調査結果より)は2.4%増となり、6年連続で増益となった。 詳細は、P41に掲載

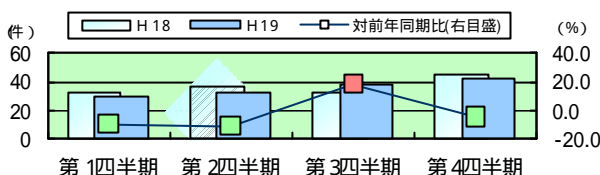
(単位: %)

	対前年比
H19年	2.4

- (2) **企業倒産件数**は143件、対前年比2.1%減となり、2年振りに前年を下回った。 詳細は、P43に掲載

(単位: 件, %)

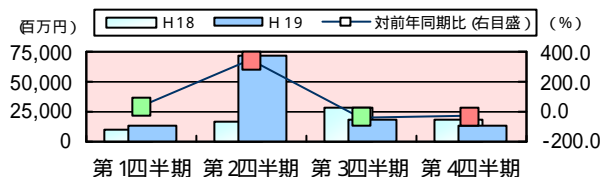
	件数	対前年同期比 対前年比
第1四半期	29	9.4
第2四半期	33	10.8
第3四半期	38	18.8
第4四半期	43	4.4
H19年	143	2.1



企業倒産負債総額は1,166億7,700万円、対前年比60.1%増となり、2年連続で前年を上回った。

(単位: 百万円, %)

	負債総額	対前年同期比 対前年比
第1四半期	13,242	35.0
第2四半期	72,521	344.3
第3四半期	18,405	35.2
第4四半期	12,509	31.8
H19年	116,677	60.1



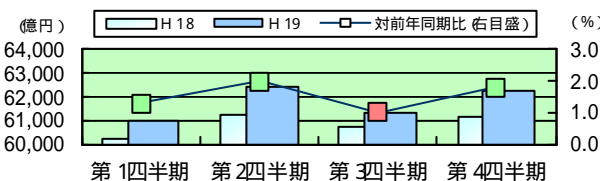
金融 → 変化方向

預金は増加。貸出は減少。金利は上昇した。

- (1) **金融機関預金残高**は総額6兆2,256億円、対前年比1.8%増となり、2年振りに前年を上回った。 詳細は、P47に掲載

(単位: 億円, %)

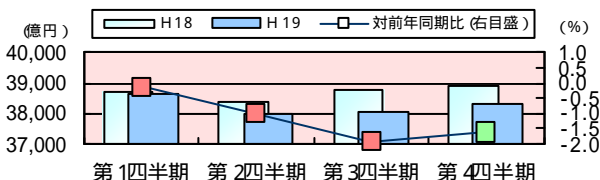
	預金残高	対前年同期比 対前年比
第1四半期	61,020	1.3
第2四半期	62,412	2.0
第3四半期	61,326	1.0
第4四半期	62,256	1.8
H19年	62,256	1.8



金融機関貸出残高は総額3兆8,326億円、対前年比1.6%減となり、3年振りに前年を下回った。

(単位: 億円, %)

	貸出残高	対前年同期比 対前年比
第1四半期	38,660	0.1
第2四半期	38,018	1.0
第3四半期	38,030	1.9
第4四半期	38,326	1.6
H19年	38,326	1.6

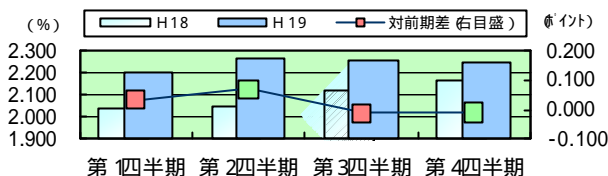


(2) **貸出約定平均金利**は地方銀行で2.245%、対前年差0.080ポイント上昇となった。

詳細は、P49に掲載

(単位：%ポイント)

	金利	対前期差 対前年差
第1四半期	2.198	0.033
第2四半期	2.267	0.069
第3四半期	2.255	0.012
第4四半期	2.245	0.010
H19年	2.245	0.080



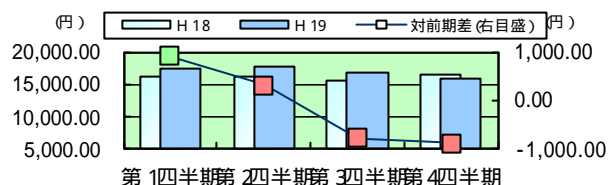
市場 **前半は株高、円安。後半は株安、円高で推移した。**

(1) **東証一部日経平均株価** (225種、期中平均値)は16,996円33銭、対前年差885円95銭高となり4年連続で前年を上回った。

詳細は、P51に掲載

(単位：円)

	株価	対前期差 対前年差
第1四半期	17,376.60	900.41
第2四半期	17,692.31	315.71
第3四半期	16,908.21	784.10
第4四半期	16,026.60	881.61
H19年	16,996.33	885.95

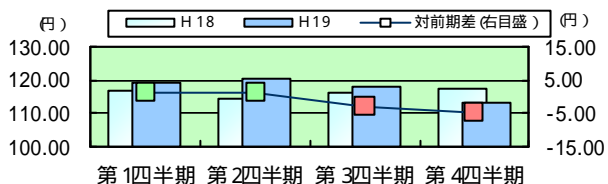


(2) **東京外国為替市場の円相場** (対米ドル、期中平均値)は117円77銭、対前年差1円46銭の円安となり3年連続で円安となった。

詳細は、P51に掲載

(単位：円)

	円相場	対前期差 対前年差
第1四半期	119.36	1.58
第2四半期	120.76	1.40
第3四半期	117.88	2.88
第4四半期	113.16	4.72
H19年	117.77	1.46



景気動向指数 **基調は回復の動きとなったが、後半は減速感が現れた。**

(1) **福島県景気動向指数 (CI一致指数)**は、平成14年1月を谷としたバブル崩壊後3回目の景気回復局面をとった。

詳細は、P53に掲載

(単位：ポイント)

	CI一致指数	対前期差 対前年差
第1四半期	106.2	2.8
第2四半期	105.0	1.2
第3四半期	106.2	1.2
第4四半期	105.1	1.1
H19年	105.1	3.9

(年値は年末値)

